

## 第371回放送番組審議会

1 日 時 2017年1月17日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者6名、欠席者2名 五大路子委員、伊藤有壺委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、  
吉川知恵子委員  
tvk;中村社長、熊谷コンテンツ局長、齊藤プロデューサー、落合プロデューサー、  
玉村編成部長

### 4 議 題 (1)放送番組

資料:①1月のタイムテーブル

②1～2月の特番一覧表

### (2)視聴合評

年越し特番『おまえ、テレビでてるってよ!』

2016年12月31日(土)23時～25時30分

### (3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年11月12日(土)～2017年1月13日(金)

・放送番組種別基本番組表(2016年4月/10月)

・種別ごとの放送時間・CM放送時間量(2015年度・2016年度)

・第370回(11月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年12月20日放送VTR)

### 5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年12月20日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長           それでは定刻でございますので、始めさせていただきます。本日は五大先生が舞台上、伊藤先生が急遽の用事でご欠席でございます。それでは山田委員長、お願いいたします。

山田委員長           それでは始めさせていただきます。1月も中旬ですけれども、改めまして新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。そして今日1月17日は阪神淡路大震災からもう22年が経過しようとしています。ついでこの間の出来事だと思っておりましたが、ふた昔前ということで。私は被災から1週間ぐらいたってから、その頃は交通機関もかなり分断されていたので、日本海方面から電車を乗り継いだり歩いたりして、神戸市の長田区、東灘区に入りまして、そうするとまだ土が温かいんですね。火災が起きてまだ鎮火したばかりで、あちこちで煙が出ているような状態で。本当に正に阿鼻叫喚と言いますか地獄絵という、そういったものが繰り広げられている、そんな感じがしました。ふと空を見ますと、本当に雲一点もない真っ青な空が六甲の山並みに沿って広がっている。地上のすさまじい光景とは非常に対照的でした。その後の東日本大震災の陸前高田市、それから昨年の熊本地震の益城町も同じようなことを経験しました。地上の無残さ、これに対照的な空の青さというものがずっと頭の中に残っております。横浜もこの30年の間に7割の確率で大規模地震が来るといわれています。もう地震が来るのは間違いない、そんな覚悟をもって取り組まなければならないのではないかと感じています。それでは第371回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長           はい。改めましてあけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願  
いいたします。皆さんもこちらの方にお正月、いらっしゃったかどうかはわかり

ませんけれども、大変穏やかな三が日でした。委員長がおっしゃった22年前のことを思い返すと、横浜の方はとってもいい三が日だったなと思っております。うちが中継したわけでもなんでもありませんが、神奈川大学が駅伝でシード入りを果たしたということが、いいニュースだったかなというふうに思います。またそういう意味では98年、駅伝優勝からベ이스ターズ優勝というのを、是非来年あたりは実現していただきたいと思った次第です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず、放送番組について。お手元のタイムテーブル、特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

玉村編成部長 では、お手元の1月の番組表と特別番組一覧、裏表をご覧ください。まずタイムテーブルですが、1月ということで「あけましておめでとうございます」というような表紙で1枚目。裏は「NEWS930α」を使っています。中面を開いていただきまして、年末年始の特別番組をご案内しています。今回ご批評いただきます年越しの特番、「おまえ、テレビでてるってよ!」。それからベ이스ターズの特別番組、そしてシリーズでやっております「あすの地球と子どもたち」の特別番組。恒例でやっております「キンシオ」「しゃかりき」「キッズ劇場」、この3番組合同の特別番組。それから前回話題になりました「銭湯物語」の5分番組の総集編的な特別番組です。下の2番組は1月から始まるレギュラー番組のご案内です。「猫侍」というものがありましたけれども、そのスタッフによります新シリーズ、「猫忍」という番組。「俺旅」という番組の第3シーズン、こちらが1月からスタートしております。2枚めくっていただきまして、こちらが特別番組のご案内です。高校サッカー、高校ラグビー。ともに優勝はなりませんでしたが、神奈川県代表チーム、サッカーは桐光、ラグビーは桐蔭の試合と、

負けた後は別の試合を中継しました。併せまして1月3日には未病の番組を特別番組として放送しました。下の方は恒例になっておりますビルボードの年間チャート100曲を紹介する番組。中面につきましてはご覧のとおりです。次が「特別番組一覧」です。今お話ししました高校ラグビーと高校サッカーは12月30日から放送しておりまして、その間に川崎競馬中継、これがサブチャンネルで1月1日から放送しておりました。前回は1月3日までのご案内を差し上げましたので、今回は4日からになります。それからラグビー中継の「大学選手権」、「神鋼 対 サントリー」というカードを放送しております。今度の日曜日が特別番組で、三浦大輔のトークショーを収録したものを30分にしまして、1月22日の18時30分に放送します。同じく日曜日にミニバスケットボールの決勝戦。29日には1月8日に行われました横浜消防出初式の模様を放送いたします。続きまして2月12日は川崎市議会の座談会でございます。同じく12日にはサンテレビジョンさんの制作によるドキュメンタリー、「スマホチルドレンを救え」というものを放送します。裏へまいりまして、2月15日水曜日は神奈川県公立高校の入試速報、それから19日は番組タイトル未定ですが、ボクシングの番組。2月25日は横浜市会座談会、26日はプリンスアイスワールド、同じく26日に毎日映画コンクールの表彰式の模様です。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から放送番組について説明がございましたがこれについて何かご意見、ご質問等がございましたら。

林委員 いいですか。

山田委員長 どうぞ。

林委員 1月22日の「三浦大輔もハーバーもずっと横浜」というのはどういった内容ですか。

玉村編成部長 私も直接見ていませんが、1月4日に三浦大輔元投手とハーバーの。

中村社長 ありあけのハーバーの会長とのトークショーで、TBS の元アナウンサーが司会進行役をしてそごうの8階でやったものを収録して放送しようというものです。

林委員 わかりました。

山田委員長 29日ですね、「つながれる鉄の系譜」、床屋さん、散髪屋さんのものですか、これは「持ち込み」と書いてありますが、これはどういうあれなんですか。

玉村編成部長 これは、年間に1本ずつ持ち込まれてくるんですが、全国理容連合会、床屋さんの組合さんが、PR のために地方局に番組を作って、全国で放送されています。

山田委員長 他に放送番組についてご意見、ご質問等ございませんか。ないようでしたら2番目の視聴合評、とても長い番組でしたが、そちらの方へ移りたいと思います。これは視聴合評をした後、番組を担当された二人のプロデューサーがお見えになっていますので、終わった後に番組のコンセプトなどをお話していただければと思いますので、よろしく申し上げます。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 はい、ありがとうございます。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴する前に番組の制作を担当されました落合さんか齊藤さんから、この番組をご説明していただけますか。

齊藤プロデューサー はい。番組の方は今ご覧いただいた通り、内容としましては、神奈川県内の全市町村に行って、2017名の方々に2016年にやり残したことであったりとか、今年ですが来年への目標をインタビューするという番組になっています。元々のコンセプトとしては、一般の市民、県民の方だけの番組をやりたいなどというところから考えておまして、tvkは神奈川のローカル局ということで、開

かれた放送局であると。「ヨコハマ開放区」というスローガンを掲げてはいるんですが、なかなかタレントさんやミュージシャンであつたり、実際出演されているのは一部の方でしかないということで。改めてここで神奈川県の方々にご出演いただいて、それを番組にしたいなというところからスタートしました。企画は二人と、もう一人部長の重富と、三人で考えましたが、ねらいとしては、そういった一般の方が出る番組ですので、全市町村へ行ったということで、少しでも見ている方が、「どこか、見たことのある場所だな」とか、「自分が住んでいる場所だな」とか、そういったところを見てもらいたい。もう一つは、もしかしたら自分の知り合い、ご家族だったり、友人であつたり、会社の同僚が出るかもしれないというところで、番組を通してtvkをより身近に感じてもらいたい。神奈川の放送局であることを改めて認識していただきたいというねらいが一つあります。もう一つは、これご覧いただいて賛否あると思うんですが、「さる」と「とり」をメインの出演者というか、MCを立てておりました。その声を水溜りボンドさんという YouTuber、インターネットの動画サイトに YouTube というものがあるんですが、そちらで専属でタレントをされている二人組の方をお願いしています。彼らはなかなか地上波のテレビ局には。ほぼ初めて。

落合プロデューサー NHK さんで1回ぐらいっていうのは聞いているんですが、他に民放ではないと。

齊藤プロデューサー 彼らを起用したというのは、どうしても今、特に若い方がテレビから離れてしまっているという現状があるところで、地域の放送局でありながらも、やはり若い人に見てもらいたいと。彼らは YouTube という動画サイトで数十万人のファン、特に若い子たちを中心としたファンを持っているので、彼らに神奈川の2017人のコメントをうまく拾ってもらって、膨らませてもらって、それを面白く仕上げ

てもらいたいなというところで起用しました。より身近に感じてもらいたいということと、もうひとつは普段tvkを見ない若い人たちに、今回の番組で少しでも見てもらえるきっかけになるようなものを作りたいたいなということで、この番組を企画と制作をしたという形になっています。

山田委員長 ありがとうございます。いつごろから製作準備に入ったんですか。

落合プロデューサー 年末の年越しをこの特番で行こうと決まったのは、10月末ぐらいです。そこから制作一同で、2017名の街頭インタビューに向けて動き出したということです。

山田委員長 なるほど、わかりました。ありがとうございます。それでは委員の皆さんにご意見をいただきたいと思います。まず吉川さんからお願いします。

吉川委員 昨年の番組審議会で「次回はこれで」と聞いた時も、企画を聞いただけで「これは絶対面白いな」と思いましたけれど、期待にたがわず。企画勝ちですよ。ね。さっきもおっしゃっていましたが、とりあえず自分の知り合いが出ているというだけで、あるいは出ているかもしれないというだけで、しかも、それがいつ出るかわからないというハラハラ感があると、長時間ずっと見るものだと思うんですよ。しかも変にシリアスじゃないし、テンポもいいので、何か作業をしながら、年末テレビをかけっぱなしにするのにすごくふさわしい番組だったなと思って、これは企画した人に本当に拍手をしたいなという。それから、「賛否両論あるのでは」とおっしゃいましたが、コメンテーターが顔を出さずに、干支の「さる」と「とり」を出して、パペット代わりに使うというアイデアも、すごいいいセンスだなと思いました。ただ欲を言えば、お猿さんの表情のパターンが少なく、コメントと全然合っていない、笑っているのに無表情のアップが映ったりとか。時間のない中で大変だったとは思いますが、もうちょっと丁寧に作り込んでもらえたら、もっと嬉しかったのになと。それから水溜りポンドは

起用のセンスはいいなと思ったんですが、作り込んだ感じがなくて、生感があってよかったなど。ちなみに台本一切なしで、画面を初めて見てのコメントの撮り切りですか。

落合プロデューサー そうですね。

吉川委員 そうでしょうね。と、思いました。思わず「その通り」と笑ってしまうコメントも随所にあって、全体的には良かったと思うんですが、時々「こいつ、こいつ」っていうのが乱発されていて、しかも愛のあるコメントなら突っ込んでも嫌な気がしないんですが、どんどん次の画面に移って行くので、フォローがないまま突っ込みっぱなしのところが何か所もあって、ちょっとハラハラすることがありました。チアリーダーのおばさまたちに、メンバーが変わっているのに、ユニフォームは同じで、「変わってないじゃん」みたいなことで、本当はメンバーが変わっているのに、そのままスルーしちゃったりとか。後は「パリピります」っていう言葉も、私たち年寄りにはあまりピンと来ないのに、スルーして「パリピるってだけじゃ、だめじゃん」みたいなので終わっちゃったりとか、細かいところで、あと、取材対象に関していえば、スポーツ関係が若干多かった気がします、老若男女、テーマもスポーツだけではなく、県内のプロチームもあまねく紹介したり、シーパラなどの名所も出て来て、非常に広くバランスよく拾おうとしている工夫を感じました。近藤さんの卓球兄弟も、ほのぼのとしたよい家庭で、そこから始まったというのは何よりこの温度感が出せてよかったと思います。それから即興パフォーマンスのカタヨセさんもすごい斬新だったです。その中で一つだけ取材対象で「あれ？」って思ったのは、まめやさんが宣伝くさくて長かったなというのがあって、あれはちょっと残念だったなど。数を稼ぐためにしょうがないんでしょうけど、スポーツイベントのファンをいっぱい出して。でも今年の感想や来年のテーマとは関係なく、「がんばれ」みたいな応援メッセ

ージを拾っちゃうのは、ちょっと、いらないかなと。美容師の女の子に関しては2015年の高校ダンス部の映像が映っていたんですけど、これは御社でなさった他の放映番組を、最初からこの子と決めて、今回取材対象にしたんですか。たまたま街頭で拾った人がそうだったということでしょうか。

落合プロデューサー まず、その子自体は一昨年ぐらいに部活を応援する「しゃかりき」という番組が日曜の夕方6時にあるんですが、その部活を取材していたのは確かで、うちの映像です。文化祭で別の取材に行ったときに、ちょうど街頭インタビューをしているときに、たまたま話があったというか、じゃあちょっと密着させてもらおうかという。だから、もともとこの子でいこうというのは、決まっていたのではないです。

吉川委員 でもすごい前の高校生の時からあって、テーマの中に働いている人が出て来るのがあまりなかった中で、この若い人が一生懸命美容師さんに向けて努力しているという画像が充分取れていて、これも目先を変えてよかったなど。最後の1594名からの怒涛のカウントは賛否両論あるかもしれないんですけど、私はやはり密着というのを入れていく以上、このテンポ感はしょうがないなというふうに思いました。ということをつけ加えて、私は今回の番組には非常に満足しています。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。いくつか質問が出るかと思いますが、それは最後にどちらか、落合さんか齊藤さんの方からお答えしていただければと思います。では、続きまして林さんお願いいたします。

林委員 私はこの水溜りポンドって知らなかったんですよ。どういった方かなと思って見ながら調べたんですけど。若い方であればご存知の方もいらっしゃるんですけど、見ている人が必ずしも若い方とは限らないので、少しはキャプションがほしかったなという気がしました。「さる」と「とり」は動きがあまりなかったよ

うな気が、私はしました。特に「さる」が。それからこの再生のコメントは、皆さん実のあるコメントをされていましたけど、「楽しかった」とか「ハッピーだ」とか、誰でも言えるようなコメントが多くて、どんな質問を設定したかわからないけれど、もっと答えやすいような設問を、十分留意されているとは思いますが、もう少し返ってくる答えが実のあるような質問を。質問も聞いていないから何ともいえないけれど。そうしてくれたら、もうちょっとコメントが出て来たのかなと思います。それから、スポーツの野球、バスケット、サッカー6球団出てきましたね。僕はあれだけ出す必要はないのかなと。であれば、特にノジマステラの方は10人ぐらい出てきましたよね。もう少し数を絞って、もう少し長くしゃべって「優勝します」とか、僕でも言えるような、あれはちょっとどうかなと。もう少し、年越し番組だから、プロスポーツなんだから、言ってもらえたらよかったかな。注文だけで申し訳ないんですが、卓球家族と高齢者のスイマー、非常に良かったのは、美容師の桃さんだったんですね。その次は JICA の職員さんが良かったなと思っています。ももさんについては今お話があった通り、ずいぶん長い間かけて、ねらって取材したのかなと思ったら、「そうじゃない」ということだったので。それはそれで、10代のお嬢さんの新しい年にかかる思いが伝わってきて、僕はあれが一番良かったです。どうなのかなと思ったのは、素人劇団、アマ劇団、プロかもしれないけど、あれはどういう基準で選ばれたのかなと。たしかあれは地震か何かの時に合わせて行っていらっしゃるんじゃないか。

落合プロデューサー たまたま福島で大きな地震があったときに、いわきで公演をやるという。

林委員 皆さんのお知り合いかな、というぐらいに思っていたんですが。高齢スイマーの方は、「少し頑張りすぎかな」と、ひやひやして見ていたんですけど。個人的には好き嫌いという、あまり小さいころから一生懸命運動するのはあまり

好きじゃないんですよ、親が出てくるのは。出てこないならいいんですけど。なんだかちょっと、ああいうのは個人的には感情移入できなくて、「頑張っているのならいいんですけど」という、冷ややかな目で見えていました。卓球家族は可愛いかったけど。野球の方はどうかなと思いました。差し障りがあったら外してもらってもいいんですけど。2時間半の番組なので注文ばかりで申し訳ないんですけど、水溜りボンドについて、知識を得られたのは非常にありがたかったけれども、どこかで顔ぐらい出してもよかったのかなという気もしましたけど。あれは出ませんでしたね。敢えて出なかったんですか。

落合プロデューサー 出ませんでした。

林委員 わかりました。以上です。

山田委員長 では続きまして二宮さんお願いします。

二宮委員 2時間半の番組で、大体年越しの番組って、皆さん出られちゃうんですけど、本当によく考えられていて。先ほど番組のコンセプト、身近で、「もしかしたら」というワクワク感を実際感じていました。結構、知っているようなお店とか出ていて、身近に感じましたし、私は全体的に出たコメントは「結構、皆さん人生楽しく生きているんだな」とか。前向きなものが多く、自分としては元気をもらえたような感覚になりました。気が付かなかったのかもしれませんが、2017人、「今、何人」って出ていましたか。

熊谷コンテンツ局長 小さくなんです。上の方にちらっと出ていたんですが、見えにくかったかもしれません。

二宮委員 ビデオが満杯になっちゃっていて、切れちゃったんですね。後でDVDをもらって見たものですから、わからなかったです。あと、市町村は出ていましたか。

熊谷コンテンツ局長 出ていません。それは終わった後の反省会でも。せっかく。うちの制作一部という部員で全員撮りに行ったんですが、そこにこだわって撮りに行ったんで

すが、そこだけ抜けてしまっていて、実はそこは大きな反省点だと思います。

二宮委員 土地勘がないものですから。厚木ばかりだなと思ったりして。

熊谷コンテンツ局長 そこは非常にもったいなかったなと思っています。

二宮委員 もう一つは、年越しなので、年が変わるときに、そこをどう演出するのかなと思っただんですが、その演出がなくて、年越し番組という意味では、そこが多分ピークになるんですが、そこはあった方がよろしかったのではないかと思います。最後に、「さる」はズボンをはいていた方が。家族みんなで見ている。私の奥さんは、チアリーダーの高齢の方、あの方に密着してほしかったなど。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。それでは白石さんお願いします。

白石委員 2時間半真面目に見させていただきました。途中で飽きちゃうんじゃないかと思いましたが、本当に面白かったです。私もYouTubeっていうのはよく知らなかったんですが、名前も出てこないの、「なるほどな」と。非常に上手なんですね。肩が凝らないように。それで笑わせる。会話をする方もされる方も、明るく楽しく会話ができるって大したものだなと思ったんです。したがって、明るく肩の凝らない番組のような気がしました。皆さんがおっしゃっていることと私も同じなんです、卓球とか野球少年とか、すべて事実の、あるいはふっとできるようなことがずっと下積み、そんな苦勞がこの番組に出ているから、この視聴者をうならせるようなことじゃなかったのかなと、私もそう感じました。林さんもおっしゃっていましたが、スポーツとか勝負をかける人たちはあまり「こういうことをやります」って言えないんですよね。たとえば野球は「ホームラン50本打ちます」って言えないですね。「頑張ります」程度にやらないと、スポーツは内に秘めておかないと、負けた場合、あるいは達成できないときに、言い訳が。自分の人生、勝負をやっていけないんですね。それが非常に多

かった部分があったので、そこは残念でしたが、あの方々にそれ以上のことを言わせようと思っても無理ですよ。ですから、それはもっと薄く、番組にした方がよろしいのではないかなと思いました。非常にいい番組でした。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして布施さん、お願いします。

布施副委員長

私も楽しく、リラックスして見られる番組でした。こういう番組って、あまり制作者の意図がジラジラって見えちゃうと、見たくなくなっちゃうでしょう。そうかといつて全然ないと、単なるオジサンおばさんがこうでしたよ、というだけでそれだけで延々と2時間も続いちゃうと、それも見られないですよ。その点上手に作ってあって、水泳のおじさんなんかもそうですけど、結構頑張ってますよね。「僕も、私も、来年はがんばらないといけないね」と。そういうのが出て来るのは非常にいいんですけど。だけど、去年から今年にかけて、実は国際社会でもなんでも、私は専門が国際法だから、非常に中国とかヨーロッパとか、トランプさんとか、そういう話題に目が行っちゃうんだけど、すごい厳しい、ひょっとしたら我が国の未来が尻切れトンボみたいになって、どうにかなっちゃうんじゃないか。そういう気がしていたんです。僕だけじゃなくいろんな人がそういうことを言っている。「本当に日本はこれでいいの?」と。その辺のことも何か考えながら、日常非常にしっかり努力して生きているんだけど、それだけでいいのかと。制作者、テレビ局としても、ズバツとじゃなくてもいいから、ジクツと見ると、非常に重くなるんじゃないかなと。今はそういう重さみたいなものが必要とされていると思うんです。テレビに出ているだけだと、「僕、出てるんだよ」っていうだけだと、「あ、そうかい」と、別に。私が大学で教えている学生は自分のことにしか興味がないから、友達が出ているとかどうかは全く興味なくて。「今度テレビに出るよ」っていうっても誰も見ない。というぐらいに、ある意味では自分本位です。逆に言えば、自分のこと、自分がどうあるべきかな

んていうことを、考えるということをするから、非常に教育だとかにはいいんですよ。そこら辺のところをあまり赤裸々に出すといやだけど、テレビの会社が持っている哲学みたいなものがどこかにあって、ジクっと出ているなという、そこが非常に大事です。私は結構出たと思う、制作者の意図が。だから否定的じゃない、非常に良かったけど、もうほんの1ミリか2ミリ出しても、「ああ、さすがtvkの番組だな」と、いうふうになってもいいんじゃないかなと。少し不満だったということは言います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。いろいろ「そうじゃないんだ」という反論もあるかと思いますが、それはまとめて最後をお願いします。私も皆さんと一緒に、とても楽しく拝見させていただきました。「おまえ、テレビでてるってよ！」というタイトルがどういう意味かな、と見ているうちに、だんだん制作者側の意図がわかってきて。テレビが普及された昭和30年代の初め、「1億総白痴化」と大宅壮一さんがいっていましたが、今はその白痴化を通り過ぎて、1億人以上の日本人がいますが、もう「総タレント化かな」と。齊藤さんがお話ししましたように、テレビがものすごく我々の生活の中に密着。つまり、出るのも、見るのも同じようなレベルでやるというようなことで。「あ、そういうようなことだな」ということを、意識しながら見ていました。とても楽しい番組でした。これは後でお伺いしたいんですが、質問としてお答えいただけたらと思いますが、よく短い期間でこれだけのグループというか、人を探してきたなという。そのなんか調査力というか、そういったものにまず感心しました。ただ、バックに出ていたお笑いタレントの二人が、全く出なかったわけですよ、言葉だけで。あれは「さる」と「とり」のお面でもかぶらせて、ちょっとだけでもときどき出るような感じにしたら良かったかなという気がします。というのは、ずっと「さる」と「とり」が画面の斜め下に出ている、それがなんとなく目障りみたいなのところもありまし

た。それと、コメントの中で、東京農大の大根踊りのことを知らなかった。「何で大根を持っているんだよ」なんて。そういうコメントを出すんであったら、事前にその二人がその辺のリサーチはしておくべきかなという気がしました。私は個人的には今の再現の中では出ていませんでしたが、JICA の職員、いろいろな芸を持っていて。それから生麦のネパール料理屋を紹介していましたけど。我々がテレビに出るということが、非常に日常的になってきたということに加えて、むしろタレント顔負けの芸を持っている市井の人もいるんだなという、そういうことがテレビの中で感じ取った人は多いんじゃないかなと思いますね。卓球少年にしてもそうですし、JICA の芸にしてもそうですし。そういったことが、まだまだ私たちの身の回りには、隠れた存在の人がいるんだなということでも、すごく成功になった番組だなと思っております。最初は「どういうことかな?」と思いましたけど、2017年を迎える、正月を迎える番組としては素晴らしい内容だったなという思いがしております。以上です。他に何か言い忘れたこと、言い足りないことがありましたら。

林委員 年変わりの時に、中村さんのイラストが出ましたよね。

熊谷コンテンツ局長 はい。よくお気づきに。

林委員 いやいや。「あったな」と思って。素晴らしく、もうちょっと、イラストより本人の方がいいのかなと思って。どなたが考えられたのかは知らないですけど。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、いくつか質問も出ていたので、「いや、そうじゃないんだ」という反論したい部分もあるかと思えますけど、それはお二人いただければと思います。

落合プロデューサー 僕は個人的には、ありがとうございます、全く反論はないんですが。布施さんがおっしゃっていたように、テレビマンとして、見ていただいた方が刺激を受けて、何かの自分の行動の一步になっていただければな、というところが裏

テーマというか、若干ねらいでもあったので、スイマーだったおじいちゃんを見て、「まだ俺もできるな」と思ってくれる方がいらっしやればうれしいですし。卓球少年で、あんな若いときから卓球をずっとやっていって、ようやく愛ちゃんもそうですけど、ようやくああいうふうに芽が出るって。まあ、一部で「親が」という意見もあると思うんですけど、みな姿の裏には努力があるというところが描ければというのが。何にもない方は本当に何にもないのかもしれないんですけど、ひとつでも刺激になってくれればなというのがあったという感じです。街頭インタビューに関しては、正直な話、ものすごく大変でした。2017年に届かないんじゃないかということで、それぞれ10名ぐらいの規模で、それぞれが小田原や相模原や、担当を決めて合間を縫って。やはりレギュラーの番組を皆持っているので、それに合わせて、それにプラスで特番の制作体制を整えるのは、なかなか大変な作業だったというの、振り返って思います。これを単発で終わらせるのではなくて、県民とこれだけ触れ合って、こういう姿を描けたのは、貴重なチャレンジで財産だと思っているので、続けていきたいなど、個人的には。上層部には全く何も話をしていないんですが、思っているところでございます。

齊藤プロデューサー いくつかあった、「さる」と「とり」の顔出しについてですが、今回最初にもお伝えしたんですが、主役は一般市民、県民の方というのをコンセプトにしていたので。あくまで「さる」と「とり」は、目立ってはいましたが、彼らはあくまで裏役ということで、顔は出さずに、どんな人間がしゃべっているかもわからないままに、一般の方に対して何かコメントしていくのがいいのかなと思って、敢えて2時間半、顔を出さずに、正体を明かさずに今回は終わらせたという意図はございました。

林委員 「出してくれ」というのはなかったんですか。

齊藤プロデューサー 私の耳には。

熊谷コンテンツ局長 彼らは、ルックスで勝負しているわけでは全然ないので。コメントと企画力というところで YouTuber の方は勝負をしているので。そんなにタレントさんのように出たいというわけではないと思います。先ほどおっしゃっていただいたように、コメントで、「インパクトあるよね」という方がうれしいんだと思います。逆に顔が出ないことによって、コメントのインパクト力があるということも、そこは察して、顔を出さなかったという意図があります。

山田委員長 他にございませんか。どうぞ。

白石委員 好評だったので、今年の暮れから正月にかけて同じように企画していますか？何か決まっていますか？

落合プロデューサー 動き出そうと思っています。というのも、反省にもちょっと近いんですが、動き出すのが10月末だと、どうしてもタームが短いので、取材も限られてくるんですね。でも一人の人に密着するんだったら、春の絵があったり、夏の絵があったりとか、もう少し期間を設けて密着に行けた方が、より立体的に見せられるかと思っているので、ちょっと早く動き出したいなと思っています。

白石委員 期待しています

山田委員長 それから先ほどお伺いしたんですが、よく短期間の間に、これだけの人を集めてきたという。どんなネットワークですか。社内で常に取材している記者の方から情報を得るとか、そういう方法でやったんですか。

落合プロデューサー スポーツ選手に関しては、スポーツ部がいるので、そこでお願いしてというのがありますが、一般の方々については駅前で街頭インタビューしたりとか。映っていない1500人ぐらいの方もいらっしゃるんですが、本当に地道にいろいろなところに。

熊谷コンテンツ局長 今回のこの番組がきっかけで、先ほど山田先生がおっしゃったみたいに、普

段レギュラーでみんな番組を持って取材をしていたりしているんですね。こういう番組があるかどうかは別にして、面白い人がいるというアンテナを張らせるというのは、こちら側の問題になりますが、ディレクターの育成にもなります。常に取材するにあたって、「面白い人がいるかどうか」というアンテナを張りながらレギュラー番組をやっていくという。いい勉強といたらいい方は変なんですけど、いい刺激にもなったと思いますので、年末あるかどうかはわかりませんが、そういう意識を持って、この1年間取材をさせていただく。県民の方と触れ合うという、いいきっかけになったと思います。

山田委員長 2年3年かかりますね。じゃあ、もうこれは社長賞決まりじゃないですか。他に何かご意見、ご質問ありますか。

吉川委員 制作部が一丸となって作られたというのも、結構この後の財産になってくるんじゃないかなと、すごい感じました。あと余計なことですけど、早めから動くのはいいんですけど、もし年末とかの同じ視点だとしたら、あまり早めからやるとリアル感がなくなってしまうので、そういうことはやめた方がいいかなと。大変なのはわかりますけど、Tシャツ着たまま今年の抱負とか、ちょっと困るので。

山田委員長 他によろしいですか。ないようでしたら、3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

玉村編成部長 お手元の資料、今回はちょっと多いんですが、順にご説明します。まず視聴者対応ですが、いつものとおりで、表裏の2枚です。この2か月間でいただいた電子メールが約1万5千通、電話が1千件弱です。お問い合わせやご意見の内容をいくつか記載しております。「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」に対する大和市の方からのご意見。「かながわ旬菜ナビ」に関して、以前ご覧いただいたときにも皆様からご意見がございましたが、レポーターのご意見。それから「カナフル TV」の大山街道に関するご意見、次回ご覧いただく予定

の「クルマでいこう！」というレギュラー番組に関するご意見。めくっていただきまして横浜市の番組「ハマナビ」に関するご意見。ベルマーレの番組に関するご意見。これはシーズンが終了と同時に番組も終了しておりますので、それに関するご意見。それから「音楽缶」というミュージックビデオの番組に関するリクエスト。それから「サタミンエイト」、次長課長の井上さんに関するご意見です。それからニュースに関するご意見が、うれしいご意見です。内訳はご覧のとおりです。それから前回ご報告申し上げましたのは、2016年4月ですが、基本の番組表に関しての放送番組種別、これを4月編成の分と10月編成の分を取りまとめて今回ご報告いたします。もう一枚、表裏のペラが15年の10月分の半期種別の合計、それから裏の方が16年の10月から4月の合計です。前回、吉川委員からどれぐらいの推移があるかというご意見がございまして、正確なお答えが言えなかったのですが、こちらが参考になるかと思えます。基本的にはあまり変わってなくて、本来であれば報道や教育がもう少し多いと良いのですが、現実的には、この通りでございます。報告事項としてはここまでです。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から視聴者対応などについて説明がございましたが、これについてご意見、ご質問はよろしいですか。

二宮委員 一点だけ。お問合せって、どういう内容なんですか。

玉村編成部長 これはわが社のホームページをご覧くださいとおわかりになるかと思いますが、各番組に関してお問合せのフォームがございまして、「意見のある方はこれに書いてください」と、名前、住所、電話番号を入れる一つの形がありまして、そこに皆さん入れていただきます。ここにたくさん出て来ていますご意見は、もちろんこういうことですし、「猫のひたいほどワイド」や「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」「かながわ旬菜ナビ」など、非常に数が多いものに関し

ては、基本的にはプレゼントの応募もこちらのフォームからお願いしているんです。

二宮委員                    それもカウントされているんですか。

玉村編成部長            いろいろご意見もありますし。逆にいうとプレゼントがないような番組は。これがそのまま番組の人気があるとかないとかでは、必ずしもないです。

二宮委員                    問い合わせではないんですか。

玉村編成部長            問い合わせもごさいます。

二宮委員                    わかりました。

山田委員長                他にございせんか。ないようでしたら、前回の番組審議委員会の議事報告に移りたいと思います。

#### 議 事 報 告

山田委員長                本日の議題はこれですべて終了いたしました。何かございせんか。では事務局の方から連絡事項がありましたらお願いします。

玉村編成部長            まず次回でございせんが、今年の2月21日の午後2時からです。視聴合評は日曜夜の「クルマでいこう！」30分の番組をご覧いただきたくお願いいたします。それから、今回ご欠席の五大委員からコメントを言付かっておりますのでご紹介します。「本日はすみません。舞台の通し稽古で伺えません。皆様によろしくお伝えください。それから舞台を見に来てください」ということでした。こちら『風の吹く街～野毛坂ダウンタウン・ストーリー』をお渡しします。以上でございせん。

山田委員長                はい、ありがとうございます。

押川取締役                私の方から。tvkでは2月1日付で人事異動を発表しておりまして、編成部長をしている玉村が1日付で東京支社専任支社次長に昇格をいたしまして、異動いたします。後任でございせんけれども、現在事務担当をしております土

屋の前任で務めておりました近藤が、編成部長ということで昇格をいたしまして務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

山田委員長 それでは玉村さん、どうも長いことありがとうございました。ひとこと。

玉村編成部長 一年半ほど務めさせていただきまして、委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。なかなか拙い運営でございまして、ご迷惑をおかけしました。今回の視聴合評については、望外のご好評を賜りまして、大変うれしく、私の旅立ちにふさわしいような。安心して。後任の近藤に関しては、以前も番組審議の担当をさせていただきましたので、引き続きよろしくお願いいたします。誠にありがとうございました。

山田委員長 どうもありがとうございました。他に何かご意見等はありませんか。ないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。